

道玄だより

第3号

今回は「祭の美術工芸品」をテーマに、当社が手掛けた装飾に関わる修理をご紹介します。



表紙の写真は、三重県伊賀上野の上野天神祭の楼車、福居町「三明」の四神をモチーフとした欄縁金具で、三重県の指定文化財になっております。作者の洒落っけで朱雀は雀で表されており、珊瑚、銅、金や銀などの素材や、象嵌技法を駆使して製作された精緻な金具を見ていると、作り手の気魄や思いが迫ってきて、大きな感動を覚えます。

祭の美術工芸品は祖先の純粋な信仰心の象徴であり、その存在感が現代において私たちに感動を興させるのだと思います。 道玄だより編集部



上野天神祭楼車『三明』欄縁隔金具

『上野天神祭総合調査報告書』より抜粋

「後の道」のタイトルに惹かれて参加。各地点で説明してくださるのも楽しくて、また自然の中に身をおく心地よさもありました。スタッフの皆様、ありがとうございました。楽しかったワ！
大要お世話になり、貴重なお話も聞けました。今後も機会があれば参加して、文化財の保存修復に関するお話も、もう少し聞きたいと思っています。

お客様の声

●「後の道」のタイトルに惹かれて参加。各地点で説明してくださるのも楽しくて、また自然の中に身をおく心地よさもありました。スタッフの皆様、ありがとうございました。楽しかったワ！
●「後の道」のタイトルに惹かれて参加。各地点で説明してくださるのも楽しくて、また自然の中に身をおく心地よさもありました。スタッフの皆様、ありがとうございました。楽しかったワ！



大原野神社本殿

古道をゆく 第二回 後の道

※各講座は参加申し込み人数が定員に達しましたので受付を終了しました。

- 第四回 逢坂の関 十一月二十二日(日)十時
- 第五回 紅の道 出雲路をゆく 十二月十三日(日)十時
- 第六回 東高瀬川と清酒の里 二〇一〇年三月十四日(日)十時



第一回 唐櫃(からと)越え講座の様子

さあくる講座

圓塾講座

講座・研修企画を承ります

おあつらえ講座

文化財は、人々の手わざの所産です。作り手の意識に思いをはせると、文化財は人間の生き様や温もりを感じさせてくれます。人の手わざを伝える文化財から、社会や自己を見つめ直すきっかけを創りませんか？
圓塾では、お客様のご希望や目的、ご予算に合わせて十名さま以上より文化講座・研修会をご提案いたします。



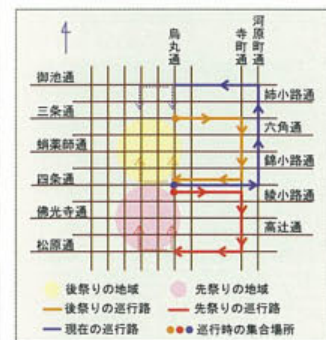
圓塾(えんじゅく) ~圓塾は、文化財活用を推進する輪さわの道玄の姉妹事業です。~
〒615-8205 京都市西京区松室中溝町30-11
TEL 075-382-1238 / FAX 075-382-1239
<http://www.enjyuku.info>

和文文化コラム 第1回

出前美術館

圓塾 澤野ともえ

現在の祇園祭の巡行路は、昭和三十一年に、祇園祭の観光化により変更されたコースである。ももとは「先祭り」と「後祭り」にわかれており、巡行コースもそれぞれで違っていた。先祭りは松原通りまで南下し、後祭りは三条通りから始まった。あの大きな山車が、道幅6メートルそこそこの小路を掻き分けるように巡行していた。それゆえ迂回しは今以上の緊張感と迫力があつた。町の住民は、二階の窓から覗き方へ、「おつかれさんどうすう」「おおきに」と言葉交わし、ビールやジュースをザルに入れ渡し、チマキと交換したという。



金の柱や天井、異国情緒漂う織物などをまとった美しい御殿が、楽器を奏でながら狭い路地をぬって民家まで動いてやって来た。それはまるで「出前美術館」。生の迫力と民衆の和で成る、民の民による民のための祭。かえってこのような祭を生み出した昔の人々のほうが、民主的文化を創造する力があつたのかもしれない。

わたしの好きな文化財 製作部彩色修復担当 鈴木宗行

私の好きな祭の一つに、栃木県の烏山に伝わる山あげ祭があります。この祭は永禄3年に烏山城主那須資胤が牛頭天王を八雲神社におまつりしたことに始まります。山あげ祭とは、日本一を誇る人造山の野外狂言劇です。



山とは、竹を細く割り網代に編んで、和紙を張り付けて作る舞台背景です。祭は7月の第4週の金、土、日に行われ、6町内が年番で行い、1町内約150人の若衆が1ヶ月前より準備にとりかかります。

祭当日は、舞台から道路上100mの間に背景が配置され、拍子木を合図に山を千変万化する仕掛があり、狂言が終わればすぐに次の場所に移動し狂言を行います。この、一糸乱れぬ若衆の団体行動の妙技と野外狂言が見事です。

この祭は昭和54年に国指定重要無形民俗文化財に指定されています。

今回ご紹介したお祭

秩父川瀬祭 日程:7月19日～20日

祇園祭 日程:7月1日～31日

亀岡祭 日程:10月23日～25日

那須烏山山あげ祭
日程:7月24日～26日

上野天神祭
日程:10月23日～25日

水口曳山祭 日程:4月19日～20日

和歌祭 日程:5月2日(前日祭)～3日

京都府亀岡祭屏風絵

※毎年のお祭りの日程については、各自治体にお問い合わせください。

◇発行 株式会社さわの道玄 担当:徳永

〒604-8232

京都市中京区錦小路通油小路東入る空也町491番地

TEL 075-254-3885 / FAX 075-254-3886

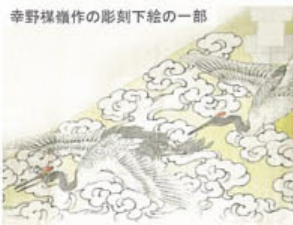
祇園祭放下鉾 丹頂鶴五羽彫刻修理
洗浄剥落止め 欠損木部修理 古色補彩色

(京都市)



祇園祭は、貞観11年(869)に始まり、今の様式になったのは応仁の乱以後のようです。江戸時代に遭った三度の大火後も復興修理され、町衆の心意気と伝統を今に伝えています。

幸野煤嶺作の彫刻下絵の一部



今回紹介します修理は、放下鉾町の妻飾、丹頂鶴彫刻修理です。彫刻の下絵は、日本画家幸野煤嶺によるもので、日本画的な構図と繊細な毛並みや脚の表現が特徴的な彫刻です。下絵は現在も町内に伝わっています。

修理は、その脚の破断修理と羽先部欠損、彩色汚れの除去をおこないました。細い脚の接着と羽先の欠損部の接着・補填箇所が、回りの雰囲気と馴染むように配慮しました。

製作部保存修復担当 飯田真司



ちちぶ かわせまつり

秩父川瀬祭 本町山車修理

漆塗り修理 彩色修理

(埼玉県)

埼玉県秩父川瀬祭の本町屋台修復委員会より、祭屋台の装飾修復をご依頼いただき、約1年かけて復原修理をおこないました。



屋台の彫刻修理には、金箔を押した上に彩色を施す「生彩色」という技法を用いています。

それぞれの彫刻にはテーマがあるのですが、『太平記』の楠正成や『古事記』『日本書紀』の須佐之男命や神功皇后と武内宿禰、竹生島で琵琶を奏でる平経正と白龍など様々で、昭和10年に建てられた方の価値観や誇りが窺われます。製作部漆修復担当 大井未歩

本町の屋台の彫刻は他の町に比べても板自体が厚いので、彫りが深く迫力があります。夕方から夜に掛けて行われる宵宮では屋台が提灯灯りに照らされ、金箔の上に施された岩絵具がきらきらとひかり、彫刻の美しさを一層引き立てます。秩父本町修復委員会 新井様より



紀州東照宮 和歌祭御神輿修理

漆塗り修理 金具修理

(和歌山市)



紀州東照宮に伝わる和歌祭の神輿を94年ぶりに修理し、漆塗りと金具の箔押しをおこないました。この神輿は、御所車がついていることから御所神輿と呼ばれています。かつては、現在の紀州人の武勇や心意気を示す行列と神輿の渡御などに加え、御閑船も出る陸海あげでの祭でした。当時、大勢が行列を作る祭りとしては日本初で、「日本三大祭」「紀州の国中第一の大祭」と呼ばれていたそうです。和歌山の人々の文化意識の高さを示す行事のひとつとして、現在に受け継がれています。営業部 信正靖雄

渡御行列は今から400年前、百種類に近い種目が有り、それぞれ株という単位でまとまり、その株には株主があり、株中をまとめながら他の株と総合的に考らないように尽力をされてきた。株の種類は、神輿の後に城下町の人々が、古くから由緒ある技芸を披露しながら従って行列を組んだのである。その時代に、身分を問わず無礼講であったと伝えられている。戦国世の遠くない時代を考えると当時としては画期的であったと言えます。

西川秀記宮司様より

みなと ちき やままつり

水口曳山祭 山車彫刻修理

欠損部分 木部修理

(滋賀県)



東海道の宿場町であった滋賀県甲賀市水口で行われる水口曳山祭は、1735年に始まり、現在では毎年4月20日に16基の曳山が“水口はやし”と共に賑やかに巡行します。

曳山は二層露天式という形式で、各町内ともにそれぞれ違ったモチーフの彫刻が特徴的な曳山です。

昨年、その曳山のうち、天王町様の曳山彫刻修理を依頼して頂きました。

修理内容は欄間彫刻の龍や獅子鼻の欠損部分の復原でした。復原箇所が、この山車の重みある白木彫刻に馴染むように、欠損部の造形、古色付けを丁寧に仕上げました。



製作部保存修復担当 平田智計